

学部等	学科等	①大学・大学院の設置理念 ①学科・専攻の設置理念	②教員養成に対する理念・構想（大学、大学院） ②教員養成に対する理念・構想（学科、専攻）
		③認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等／免許校種ごと）	
		<p>成蹊学園創立者中村春二が目指した教育理念である「自発的精神の涵養と個性の発見伸長を目指す真の人間教育」を踏まえ、知育偏重ではなく、人格、学問、心身にバランスのとれた人間教育を実践し、確かな教養と豊かな人間性を兼ね備え、社会の発展のために献身的に貢献できる人材を輩出すること、学術的理論及び応用を教授研究し、自由な知の創造をはかり、もってその深奥を究めて文化の進展に寄与すること、地域社会に根ざしつつ、世界に開かれた教育・研究機関として、その成果を社会に還元することを通じて、人類の共存に寄与することを設置の理念とする。</p> <p>なお、成蹊学園では、2018年に成蹊学園サステナビリティ教育研究センターを設置するとともに、2019年には成蹊学園としてユネスコスクールの認定を受け、SDGsやESDの活動を推進することにより、大学のみならず併設する小学校、中学校及び高等学校とともに、文部科学省平成29年度告示小学校学習指導要領及び中学校指導要領の前文にも掲げられている「持続可能な社会の創り手」の育成に努めている。</p>	<p>本学は、「知育偏重ではなく人格、学問、心身にバランスのとれた人間教育の実践」を唱える学園創立者中村春二の教育理念を受け、“桃李”が人を惹きつけるように、世人が慕って自然と集まり従う、徳を備えた人物の育成を理想とし、「個性の尊重と人格陶冶による豊かな人間性の形成」という建学の精神を掲げて中等教育から出発した成蹊学園の伝統を受け継ぐ大学である。この理念・精神を成蹊教育の原点として学生一人ひとりの個性を尊重し育てることを大切にしてきた。大切に育てられた個性や人格陶冶による豊かな人間性は、視野の広い教養と高度の専門的知識・技能に裏打ちされていることも不可欠である。</p> <p>設置する文系4学部（経済学部・法学部・文学部・経営学部）と理工学部において、そうした願いの下に教養教育と専門教育に取り組んでいる。またこれら5学部が同一キャンパスにあることから、成蹊教養カリキュラムの授業やクラブ・サークル活動を通していろいろな価値観をもった学生同士の接触・交流が広がられており、お互いの個性を尊重し合う社会性を育てている。</p> <p>こうした理念、環境のなかで徐々に醸成される豊かな人間性と能力は、社会的要請である「豊かな人間性を持ち生徒を惹きつける個性的な魅力をもつ資質・力量の高い教員」という要件に合致したものにほかならない。本学はまさに社会の期待に応えられる教師を育て、送り出すための好適な条件を備えていると言って良いであろう。このような利点を大いに活かし、本学は「開放制教員養成制度」の趣旨に則って、教師としての責任感や愛情を育み、教職に関する深い教養と教育的技能を教授する課程を大学教育の一領域に位置付け、全学科・研究科における専門教育に応じた教科で、教職課程を構築することとした。広い視野を持ち、高度の専門的知識・技能、科学研究精神を身につけ、理論的考察力においても実践的教育活動においても、生徒・保護者ばかりでなく、日本国民や世界の人の期待に応じて活躍できる教師を育成することを願うものであります。教育界に貢献できる教師を送り出すことは、大学としての社会的責任を果たすことになると考える。</p>
経済学部	現代経済学科	<p>我が国が直面する急速な人口減少と技術革新は、計り知れない未知の影響を地域社会に与えつつある。人口減少によって、コミュニティそのものが消滅の危機に直面する地域が増加するなかで、成蹊大学経済学部のキャンパスが存在する武蔵野市は、東京都の中でも様々な面で恵まれた状況に置かれている。その立地を生かし、今後の東京や日本の持続可能性を地域社会や企業とともに探求することが、小学校から大学院までを有する地域の教育機関としての1つの使命でもある。</p> <p>地域・環境問題や財政・福祉政策など、現代社会が直面する問題は、従来の経済理論の鳥瞰的な視点だけでなく、自ら現場に赴き自身の目と耳で様々なデータを収集・分析して問題を把握しその原因を明らかにする「虫の目」も併せ持つ必要がある。</p> <p>このような背景から、経済学の知識と応用力をさらに深めるとともに、多種のデータ分析にもとづいて客観的かつ批判的に問題を直視し、課題克服に向けて他者と協働しながら自ら立ち向かう人材を育成するため、現代経済学科を設置する。</p>	<p>経済学の知見に基づき、現代の複雑な社会問題を正しく理解するための分析力と、それらを意欲的に解決するための実践力とを備え、持続可能な経済社会の構築に資する人材の養成をめざす経済学部においては、歴史的思考を含めて多角的な視座から学んだ経済学の知識を、現代社会や地域の抱える問題の発見につなげていく実践力・応用力を備え、また、直面する問題を客観的かつ批判的に直視することができ、他者と協働しながら身近な地域社会の課題克服に立ち向かう人材を養成する。</p> <p>こうした人材養成を通じて培った、課題解決に向けて社会的な見方・考え方を働かせる能力を活かして、学習指導要領において中学校社会科、高等学校地理歴史科および公民科が目標としている「平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者」として生徒の資質を養い、現代の我が国及び国際社会に生徒が「主体的」に関わっていけるような教育を実践できる教員を養成することをめざしている。</p>
		<p>○中学校一種免許状（社会） 経済学部現代経済学科は、経済学の知見に基づき、現代の複雑な社会問題を正しく理解するための分析力と、それらを意欲的に解決するための実践力とを備え、持続可能な経済社会の構築に資する人材の養成をめざす経済学部において、現代経済学科においては、歴史的思考を含めて多角的な視座から学んだ経済学の知識を、現代社会や地域の抱える問題の発見につなげていく実践力・応用力を備え、また、直面する問題を客観的かつ批判的に直視することができ、他者と協働しながら身近な地域社会の課題克服に立ち向かう人材を養成する。</p> <p>こうした人材養成を通じて培った、課題解決に向けて社会的な見方・考え方を働かせる能力を活かして、「平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者」として生徒の資質を養い、現代の我が国及び国際社会に生徒が「主体的」に関わっていけるような教育を実践できる教員を養成することをめざしている。</p> <p>さらに、地域・環境問題や財政・福祉政策など、現代社会が直面する問題を解決するために、従来の経済理論の鳥瞰的な視点だけでなく、自ら現場に赴き自身の目と耳で様々なデータを収集・分析して問題を把握しその原因を明らかにする「虫の目」を育成することを目的とする経済学部現代経済学科は、中学校一種免許状（社会）の課程を置くことが相応しいと考える。</p>	<p>○高等学校一種免許状（地理歴史） 経済学部現代経済学科は、経済学の知見に基づき、現代の複雑な社会問題を正しく理解するための分析力と、それらを意欲的に解決するための実践力とを備え、持続可能な経済社会の構築に資する人材の養成をめざす経済学部において、現代経済学科においては、歴史的思考を含めて多角的な視座から学んだ経済学の知識を、現代社会や地域の抱える問題の発見につなげていく実践力・応用力を備え、また、直面する問題を客観的かつ批判的に直視することができ、他者と協働しながら身近な地域社会の課題克服に立ち向かう人材を養成する。</p> <p>こうした人材養成を通じて培った、課題解決に向けて社会的な見方・考え方を働かせる能力を活かして、「平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者」として生徒の資質を養い、現代の我が国及び国際社会に生徒が「主体的」に関わっていけるような教育を実践できる教員を養成することをめざしている。</p> <p>さらに、人口減少によって、コミュニティそのものが消滅の危機に直面する地域が増加するなかで、今後の東京や日本の持続可能性を地域社会や企業とともに探求し、歴史的思考を含めて多角的な視座から学んだ経済学の知識を、現代社会や地域の抱える問題の発見につなげていく実践力・応用力を備える人材を育成することを目的とする経済学部現代経済学科は、高等学校一種免許状（地理歴史）の課程を置くことが相応しいと考える。</p>
		<p>○高等学校一種免許状（公民） 経済学部現代経済学科は、経済学の知見に基づき、現代の複雑な社会問題を正しく理解するための分析力と、それらを意欲的に解決するための実践力とを備え、持続可能な経済社会の構築に資する人材の養成をめざす経済学部において、現代経済学科においては、歴史的思考を含めて多角的な視座から学んだ経済学の知識を、現代社会や地域の抱える問題の発見につなげていく実践力・応用力を備え、また、直面する問題を客観的かつ批判的に直視することができ、他者と協働しながら身近な地域社会の課題克服に立ち向かう人材を養成する。</p> <p>こうした人材養成を通じて培った、課題解決に向けて社会的な見方・考え方を働かせる能力を活かして、「平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者」として生徒の資質を養い、現代の我が国及び国際社会に生徒が「主体的」に関わっていけるような教育を実践できる教員を養成することをめざしている。</p> <p>さらに、地域・環境問題や財政・福祉政策など、現代社会が直面する問題を解決するために、経済学の知識と応用力をさらに深めるとともに、多種のデータ分析にもとづいて客観的かつ批判的に問題を直視し、課題克服に向けて他者と協働しながら自ら立ち向かう人材を育成することを目的とする経済学部現代経済学科は、高等学校一種免許状（公民）の課程を置くことが相応しいと考える。</p>	

<経済学部現代経済学科> (認定課程: 中一種免(社会))

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教育の基礎的理解に関する科目においては、教師となるために必要な知識と内容を把握し、教育に関する基本的な概念や理論、子どもの発達と各発達段階における特徴とそれに応じた学習メカニズムと支援の方法、などについて学び、教職への関心・理解および進路としての意識付けが各自でできることを到達目標とする。 教科及び教科の指導法に関する科目の履修においては、「近現代日本史A」「初級ミクロ経済学Ⅰ」や「哲学の基礎」等の科目を履修することによって、中学校社会科についての基礎的かつ包括的知識の習得を到達目標とする。また「基礎ゼミナール」を履修し、大学での学習の基礎的な力量を身につけることを到達目標とする。
	後期	後期では、前期に引き続き、教育の基礎的理解に関する科目においては、教育改革、教育諸問題、改訂教育基本法・学校教育法の要点を理解するとともに学校教育の今後に対する考察を行うための知識と能力を身につけ、生徒指導および進路指導の実践的能力を身につけることを到達目標とする。 教科及び教科の指導法に関する科目の履修においては、前期に引き続き「経済史の基礎」等の科目を履修することによって、中学校社会科についての基礎的な知識とともに、(かつ)包括的な内容(知識)の習得を到達目標とする。
2年次	前期	教育の基礎的理解に関する科目においては、1年次の概論的な科目から各論に進んだ科目を履修する。具体的には、教育課程のあり方、指導案作成や情報機器の活用を含む教育方法、教育相談とカウンセリングに関する基礎的な知識と技法、特別支援教育の内容および役割などの知識と基礎的技能を習得していることを到達目標とする。 教科及び教科の指導法に関する科目の履修においては、「日本史概論Ⅰ」「世界史概論Ⅰ」等の科目の履修によって、中学校社会科の内容についての概略的、一般的包括的内容について把握するとともに、「数量経済史」等の専門性の高い科目の履修によって中学校社会科の教科内容を習得していることを到達目標とする。
	後期	教育の基礎的理解に関する科目については、前期に引き続き、各論に進んだ科目を履修し、教育課程や授業を進める上での諸技法等を習得することを到達目標とする。 教科及び教科の指導法に関する科目の履修においては、「現代の政治学」等の科目の履修によって、中学校社会科の内容についての概略的、一般的包括的内容について把握するとともに、「社会科・地理歴史科教育法」「社会科・公民科教育法」において、学習指導要領に示された中学校社会科の目標及び内容、教科指導の基本的知識の習得していることを到達目標とする。
3年次	前期	総合的学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目においては、模擬授業とその検討を通じて、道徳教育、総合的学習の時間や特別活動の基本的な指導の在り方を身につけることを到達目標とする。 また教科の指導法では、「社会科教育法A」「社会科教育法B」を履修し、教科指導の基本的知識、授業案の作成手順をふまえて、模擬授業によって、教科指導の具体的な内容を習得することを到達目標とする。 学科カリキュラムの履修においては、2年次に記した科目の履修に加え、全員が「上級ゼミナールⅠ」を履修し、具体的なテーマについて主体的な調査・分析を通して獲得した知識を総合的なものにし、グループ研究・発表を通して教員としても必要なコミュニケーション能力を養成することを到達目標とする。
	後期	後期では、次年度の教育実習の準備としての科目である「教育実習論」を履修し、教育実習の意義と課題を確認し、心構え、態度、基礎知識、実情、判断力および話し方や板書といった実践技能を修得することを到達目標とする。また、「教職特論演習Ⅰ」の履修で、卒業後の教員採用を視野に入れ、これまで学んできた教職、教科のみならず教員として必要とされる幅広い知識を得ることもできるようにする。 学科カリキュラムの履修にあつては、前期の「上級ゼミナールⅠ」に引き続き「上級ゼミナーⅡ」を履修し、「上級ゼミナールⅠ」で身につけた能力を確実なものとしていくことを到達目標とする。
4年次	前期	教育実習年度となり、「教育実習(中・高)」を履修する。この科目は、前年度後期の「教育実習論」に引き続き、教育実習の事前指導を受けたのち、実習校における実際の教育実習を行い、そして実習終了後の事後指導を受けることによって、学校教育を体験研究し、授業を初めとする教員の基礎的な力量を身につけることを到達目標とする。 学科カリキュラムの履修にあつては、これまで履修できなかった科目の履修とともに、必修とはしていないが、「卒業研究」に通年で取り組み、学修の集大成として現代の社会問題から主体的に定めた研究課題を深く探求する能力を養成することを到達目標とする。
	後期	後期では、教職課程の集大成として「教職実践演習(中・高)」を履修する。これまでの教職課程の科目履修を振り返り、教員として必要な資質とは何かをもう一度問い直すことで、すでに備わっている事項と不足している事項を認識する。これにより、資質の高い教員をめざす力量を獲得することを到達目標とする。 学科カリキュラムの履修にあつては、「卒業研究」での論文・最終レポートの完成等を通して、学部の学修の集大成をおこなうとともに、学部卒業および教員として必要な能力の完成をさせることを到達目標とする。

様式第7号ウ（教諭）

＜経済学部現代経済学科＞（認定課程：中一種免（社会））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称							
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等			教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目	
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称					
1年次	前期	2	C	教職論	近現代日本史A		日本国憲法	基礎ゼミナール	
		2	B	教育原理	初級ミクロ経済学Ⅰ		健康・スポーツ演習A	初級統計学Ⅰ	
		2	E	教育心理学	初級マクロ経済学Ⅰ		College English (Listening & Speaking) Ⅰ	初級経済数学	
					哲学の基礎			情報基礎	
	後期				倫理学の基礎				
		2	D	学校と社会	経済史の基礎		College English (Listening & Speaking) Ⅱ	初級統計学Ⅱ	
		3	L	生徒指導論	初級ミクロ経済学Ⅱ				
				3	N	進路指導論	初級マクロ経済学Ⅱ		
2年次	前期	2	F	特別支援教育概論	日本史概論Ⅰ	学校経営と学校図書館			
		2	G	教育課程論	世界史概論Ⅰ	学校図書館メディアの構成			
		3	K	教育の方法と技術	人文地理学	学習指導と学校図書館			
		3	M	教育相談	現代の政治学	読書と豊かな人間性			
					自然地理学	情報メディアの活用			
	後期			社会科・地理歴史科教育法	日本史概論Ⅱ				
				社会科・公民科教育法	世界史概論Ⅱ				
		3	R	ICT活用の理論と方法	地誌学				
					社会経済地理学				
					比較経済史				
3年次	前期	3	H	道徳教育の指導法	社会思想史			上級ゼミナールⅠ	
		3	I	総合的な学習の時間の指導法					
		3	J	特別活動の指導法					
				社会科教育法A					
			社会科教育法B						
	後期	4		教育実習論	地域経済史	教職特論演習Ⅰ		上級ゼミナールⅡ	
				ベーシック民法					
4年次	前期	4		教育実習（中・高）		教職特論演習Ⅱ		卒業研究	
	後期	4		教職実践演習（中・高）				卒業研究	

<経済学部現代経済学科> (認定課程:高一種免(地理歴史))

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教育の基礎的理解に関する科目においては、教師となるために必要な知識と内容を把握し、教育に関する基本的な概念や理論、子どもの発達と各発達段階における特徴とそれに応じた学習メカニズムと支援の方法、などについて学び、教職への関心・理解および進路としての意識付けが各自でできることを到達目標とする。 教科及び教科の指導法に関する科目の履修においては、「近現代日本史A」等の科目を履修することによって、中学校社会科についての基礎的かつ包括的知識の習得を到達目標とする。また「基礎ゼミナール」を履修し、大学での学習の基礎的な力量を身につけることを到達目標とする。
	後期	後期では、前期に引き続き、教育の基礎的理解に関する科目においては、教育改革、教育諸問題、改訂教育基本法・学校教育法の要点を理解するとともに学校教育の今後に対する考察を行うための知識と能力を身につけ、生徒指導および進路指導の実践的能力を身につけることを到達目標とする。 教科及び教科の指導法に関する科目の履修においては、前期に引き続き「経済史の基礎」等の科目を履修することによって、中学校社会科についての基礎的かつ包括的知識の習得を到達目標とする。
2年次	前期	教育の基礎的理解に関する科目においては、1年次の概論的な科目から各論に進んだ科目を履修する。具体的には、教育課程のあり方、指導案作成や情報機器の活用を含む教育方法、教育相談とカウンセリングに関する基礎的な知識と技法、特別支援教育の内容および役割などに知識と基礎的技能を習得していることを到達目標とする。 教科及び教科の指導法に関する科目の履修においては、「日本史概論Ⅰ」等の履修によつ高等学校公民科の内容についての概略的、一般的包括的内容について把握するとともに、「日本経済史A」等の専門性の高い科目の履修によつ高等学校地理歴史科の教科内容を習得していることを到達目標とする。
	後期	教育の基礎的理解に関する科目については、前期に引き続き、各論に進んだ科目を履修し、教育課程や授業を進める上での諸技法等を習得することを到達目標とする。 教科及び教科の指導法に関する科目の履修においては、「日本史概論Ⅱ」等の科目の履修によつ、高等学校公民科の内容についての概略的、一般的包括的内容について把握するとともに、「日本経済史B」等の専門性の高い科目の履修によつ高等学校地理歴史科の教科内容を習得し、「社会科・地理歴史科教育法」において学習指導要領に示された高等学校地理歴史科の目標及び内容、教科指導の基本的知識の習得していることを到達目標とする。
3年次	前期	総合的学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目においては、模擬授業とその検討を通じて、総合的学習の時間や特別活動の基本的な指導の在り方を身につけることを到達目標とする。 学科カリキュラムの履修においては、2年次に記した科目の履修に加え、全員が「上級ゼミナールⅠ」を履修し、具体的なテーマについて主体的な調査・分析を通して獲得した知識を総合的なものにし、グループ研究・発表を通して教員としても必要なコミュニケーション能力を養成することを到達目標とする。
	後期	後期では、次年度の教育実習の準備としての科目である「教育実習論」を履修し、教育実習の意義と課題を確認し、心構え、態度、基礎知識、実情、判断力および話し方や板書といった実践技能を修得することを到達目標とする。 また教科の指導法では、「地理歴史科教育法」を履修し、教科指導の基本的知識、授業案の作成手順をふまえて、模擬授業によつて、教科指導の具体的な内容を習得することを到達目標とする。 学科カリキュラムの履修にあつては、前期の「上級ゼミナールⅠ」に引き続き「上級ゼミナールⅡ」を履修し、「上級ゼミナールⅠ」で身につけた能力を確実なものとしていくことを到達目標とする。
4年次	前期	教育実習年度となり、「教育実習(中・高)」または「教育実習(高)」を履修する。この科目は、前年度後期の「教育実習論」に引き続き、教育実習の事前指導を受けたのち、実習校における実際の教育実習を行い、そして実習終了後の事後指導を受けることによって、学校教育を体験研究し、授業を初めとする教員の基礎的な力量を身につけることを到達目標とする。 学科カリキュラムの履修にあつては、これまで履修できなかった科目の履修とともに、必修とはしていないが、「卒業研究」に通年で取り組み、学修の集大成として現代の社会問題から主体的に定めた研究課題を深く探求する能力を養成することを到達目標とする。
	後期	後期では、教職課程の集大成として「教職実践演習(中・高)」を履修する。これまでの教職課程の科目履修を振り返り、教員として必要な資質とは何かをもう一度問い直すことで、すでに備わっている事項と不足している事項を認識する。これにより、資質の高い教員をめざす力量を獲得することを到達目標とする。 学科カリキュラムの履修にあつては、「卒業研究」での論文・最終レポートの完成等を通して、学部の学修の集大成をおこなうとともに、学部卒業および教員として必要な能力の完成をさせることを到達目標とする。

様式第7号ウ（教諭）

<経済学部現代経済学科>（認定課程：高一種（地理歴史））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称							
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等			教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目	
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称					
1年次	前期	2	C	教職論	近現代日本史A		日本国憲法	基礎ゼミナール	
		2	B	教育原理	近現代のアジアA		健康・スポーツ演習A	初級統計学Ⅰ	
		2	E	教育心理学	現代の欧米A		College English (Listening & Speaking) Ⅰ	初級経済数学	
	後期							情報基礎	
		2	D	学校と社会	経済史の基礎		College English (Listening & Speaking) Ⅱ	初級統計学Ⅱ	
		3	L	生徒指導論	近現代日本史B				
		3	N	進路指導論	近現代のアジアB				
2年次	前期				現代の欧米B				
		2	F	特別支援教育概論	日本史概論Ⅰ	学校経営と学校図書館			
		2	G	教育課程論	世界史概論Ⅰ	学校図書館メディアの構成			
		3	K	教育の方法と技術	比較経済史	学習指導と学校図書館			
	3	M	教育相談	人文地理学	読書と豊かな人間性				
	後期				経済地理学A	情報メディアの活用			
				社会科・地理歴史科教育法	日本史概論Ⅱ				
3		R	ICT活用の理論と方法	世界史概論Ⅱ					
3年次	前期				自然地理学				
		3	I	総合的な学習の時間の指導法	社会経済地理学	道徳教育の指導法		上級ゼミナールⅠ	
	3	J	特別活動の指導法	エリア・スタディーズB					
	後期	4		教育実習論	経済地理学B	教職特論演習Ⅰ		上級ゼミナールⅡ	
				地理歴史科教育法					
4年次	前期	4		教育実習(中・高)		教職特論演習Ⅱ		卒業研究	
	後期	4		教職実践演習(中・高)				卒業研究	

<経済学部現代経済学科> (認定課程:高一種免(公民))

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教育の基礎的理解に関する科目においては、教師となるために必要な知識と内容を把握し、教育に関する基本的な概念や理論、子どもの発達と各発達段階における特徴とそれに応じた学習メカニズムと支援の方法、などについて学び、教職への関心・理解および進路としての意識付けが各自でできることを到達目標とする。 教科及び教科の指導法に関する科目の履修においては、「初級ミクロ経済学Ⅰ」や「哲学の基礎」等の科目を履修することによって、中学校社会科についての基礎的かつ包括的知識の習得を到達目標とする。また「基礎ゼミナール」を履修し、大学での学習の基礎的な力量を身につけることを到達目標とする。
	後期	後期では、前期に引き続き、教育の基礎的理解に関する科目においては、で教育改革、教育諸問題、改訂教育基本法・学校教育法の要点を理解するとともに学校教育の今後に対する考察を行うための知識と能力を身につけ、で生徒指導および進路指導の実践的能力を身につけることを到達目標とする。 教科及び教科の指導法に関する科目の履修においては、前期に引き続き「初級ミクロ経済学Ⅱ」等の科目を履修することによって、高等学校公民科についての基礎的な知識とともに、包括的な内容の習得を到達目標とする。
2年次	前期	教育の基礎的理解に関する科目においては、1年次の概論的な科目から各論に進んだ科目を履修する)具体的には、教育課程のあり方、指導案作成や情報機器の活用を含む教育方法、教育相談とカウンセリングに関する基礎的な知識と技法、特別支援教育の内容および役割などに知識と基礎的技能を習得していることを到達目標とする。 教科及び教科の指導法に関する科目の履修においては、「国際マクロ経済学」等の専門性の高い科目の履修によって高等学校公民科の教科内容を習得していることを到達目標とする。
	後期	教育の基礎的理解に関する科目については、前期に引き続き、各論に進んだ科目を履修し、教育課程や授業を進める上での諸技法等を習得することを到達目標とする。 教科及び教科の指導法に関する科目の履修においては、「現代の政治学」等の科目の履修によって、高等学校公民科の内容についての概略的、一般的包括的内容について把握するとともに、「社会科・公民科教育法」において学習指導要領に示された高等学校公民科の目標及び内容、教科指導の基本的知識の習得していることを到達目標とする。
3年次	前期	総合的学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目においては、模擬授業とその検討を通じて、総合的学習の時間や特別活動の基本的な指導の在り方を身につけることを到達目標とする。 学科カリキュラムの履修においては、2年次に記した科目の履修に加え、全員が「上級ゼミナールⅠ」を履修し、具体的なテーマについて主体的な調査・分析を通して獲得した知識を総合的なものにし、グループ研究・発表を通して教員としても必要なコミュニケーション能力を養成することを到達目標とする。
	後期	後期では、次年度の教育実習の準備としての科目である「教育実習論」を履修し、教育実習の意義と課題を確認し、心構え、態度、基礎知識、実情、判断力および話し方や板書といった実践技能を修得することを到達目標とする。 また教科の指導法では、「公民科教育法」を履修し、教科指導の基本的知識、授業案の作成手順をふまえて、模擬授業によって、教科指導の具体的な内容を習得することを到達目標とする。 学科カリキュラムの履修にあつては、前期の「上級ゼミナールⅠ」に引き続き「上級ゼミナールⅡ」を履修し、「上級ゼミナールⅠ」で身につけた能力を確実なものとしていくことを到達目標とする。
4年次	前期	教育実習年度となり、「教育実習(中・高)」または「教育実習(高)」を履修する。この科目は、前年度後期の「教育実習論」に引き続き、教育実習の事前指導を受けたのち、実習校における実際の教育実習を行い、そして実習終了後の事後指導を受けることによって、学校教育を体験研究し、授業を初めとする教員の基礎的な力量を身につけることを到達目標とする。 学科カリキュラムの履修にあつては、これまで履修できなかった科目の履修とともに、必修とはしていないが、「卒業研究」に通年で取り組み、学修の集大成として現代の社会問題から主体的に定めた研究課題を深く探求する能力を養成することを到達目標とする。
	後期	後期では、教職課程の集大成として「教職実践演習(中・高)」を履修する。これまでの教職課程の科目履修を振り返り、教員として必要な資質とは何かをもう一度問い直すことで、すでに備わっている事項と不足している事項を認識する。これにより、資質の高い教員をめざす力量を獲得することを到達目標とする。 学科カリキュラムの履修にあつては、「卒業研究」での論文・最終レポートの完成等を通して、学部の学修の集大成をおこなうとともに、学部卒業および教員として必要な能力の完成をさせることを到達目標とする。

様式第7号ウ（教諭）

<経済学部現代経済学科>（認定課程：高一種（公民））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等			教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2	C	教職論	初級ミクロ経済学Ⅰ		日本国憲法	基礎ゼミナール
		2	B	教育原理	初級マクロ経済学Ⅰ		健康・スポーツ演習A	初級統計学Ⅰ
		2	E	教育心理学	哲学の基礎		College English (Listening & Speaking) Ⅰ	初級経済数学
					倫理学の基礎		情報基礎	
	後期				現代社会と哲学			
		2	D	学校と社会	初級ミクロ経済学Ⅱ		College English (Listening & Speaking) Ⅱ	初級統計学Ⅱ
		3	L	生徒指導論	初級マクロ経済学Ⅱ			
		3	N	進路指導論	心理学の基礎			
2年次	前期				自己理解の心理学			
		2	F	特別支援教育概論	ベーシック民法	学校経営と学校図書館		
		2	G	教育課程論	国際マクロ経済学	学校図書館メディアの構成		
		3	K	教育の方法と技術	国際経済学A	学習指導と学校図書館		
	後期	3	M	教育相談	現代社会と倫理学	読書と豊かな人間性		
						情報メディアの活用		
					社会科・公民科教育法	現代の政治学		
		3	R	ICT活用の理論と方法	現代日本経済			
3年次	前期				社会学			
					教育経済学			
	3	I	総合的な学習の時間の指導法	社会思想史	道徳教育の指導法		上級ゼミナールⅠ	
	3	J	特別活動の指導法	国際経済学B				
後期	4		教育実習論	環境経済学B	教職特論演習Ⅰ		上級ゼミナールⅡ	
				公民科教育法				
4年次	前期	4		教育実習(中・高)		教職特論演習Ⅱ		卒業研究
	後期	4		教職実践演習(中・高)				卒業研究